

生徒の命を最優先に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を講じながら、GIGA端末やCYOD等を活用し、工夫をして可能な限り教育活動を展開する。

2 中期目標と方策	3 今年度の取り組み目標と方策	4 数値目標
(1) 学校経営・組織		
<p>【目標】附属小学校を含む「チーム立国」として、グランドデザイン(GD)™Road to Global Citizens ~ Think Globally, Act Locally ~」に基づく教育活動を組織的に展開する。</p> <p>【方策】 ①分奏・学年主任を中心として、全教職員が課題を共有し、解決に向けた協働体制による前期・後期及び附属小学校と中等教育学校との一体的な運営 ②主幹会議、企画調整会議、教科主任会議、PDCA会議の機能の充実と活用 ③生徒による授業評価、学校運営連絡協議会の評価等を活かした学校運営 ④若手教職員のOJTへの組織的支援体制の構築 ⑤保護者との協働による生徒の育成を図る組織 ⑥経営参画ガイドラインに基づいた経営企画室職員の経営参画と教員の連携による教育目標の達成 ⑦生活と仕事との両立・調和のためのライフ・ワーク・バランスを推進するために、効率的な校務運営の構築 ⑧違いを認め自分と他者とを大切にする気持ちの醸成による集団力の向上といじめをしない、させない、見過ごさない態度の育成、個人情報との適切な取扱いの遵守、すべての教育活動から体罰を根絶する取組の促進 ⑨東京都教育委員会が設定する共通の教育課題への取組</p>	<p>【目標】附属小学校の取組も理解し、全教職員が「自分事として捉える意識」をもち団結して「国際理解教育」と「進学指導」をより高いレベルで達成する。</p> <p>①分掌主任と副主任による前期と後期の円滑な接続と学年主任による学年間の情報共有の推進及び附属小学校と協働して、主に次の取組を実施 総務部：入学式・卒業式・開校記念式典等の実施、生徒指導部：対面式・三祭・ふれあいデー等の実施、 教務部：適性検査の実施、学習に関する生徒情報の共有、学年：生活に関する生徒情報の共有、 進路部：中等教育学校進学規定の共有、国際探究部：国際交流や留学生受入れ、探究的な学習に関する情報共有 ②企画調整会議の内容精査（協議の充実）及び時間の確保 ③「塾依存の生徒をゼロに！学校で責任を持って指導する」という共通理解の形成と使命感に基づく実際の取組の充実（進路指導部、教科） ④1年目～5年目を中心に、学期に1回の研究授業と授業後の協議の実施と先輩教員の授業参観 ⑤保護者会の実施、三者面談、二者面談の充実（双方向型の保護者会、データ等を活用した面談） ⑥課長は企画調整会議を活用し行政系の視点からよりよい学校運営に資する提案をすとともに、企画室の朝の打合せを活用して職員室の日々の動向を企画室職員と共有し、企画室と職員室が双方向型で連携を促進 ⑦各分掌における仕事内容の整理、担任と副担任の連携による学年・学級運営 ⑧グループエンカウンター及びスクールカウンセラーによる心理講話の実施（1・2学年）、指導主事を講師に教職員対象校内研修の実施 ⑨体力の向上を図る取組として学校行事の充実、行内体制の整備による部活動の推進、オリンピック・パラリンピックのレガシー教育を、学校全体で組織的・計画的に展開</p>	<p>○学校評価：生徒の満足度85％、保護者の満足度85％ ○服務規律の徹底により服務事故：0 ○「チーム立国」の教育力向上のために、各学年・各分掌内での日常のOJTの満足度：80％</p>
(2) 学習指導		
<p>【目標】学力の三要素の育成を意識し、主体的・対話的で深い学びに基づいた学習指導を展開し、教養と知性溢れる自立した学習者の育成を目指す。</p> <p>【方策】 ①新学習指導要領に基づいた、中高一貫教育校としての6年間の体系的な教育課程を編成及び指導計画の作成 ②立国探究活動を構築し、メタ認知力を育成 ③GIGA端末やCYOD端末の効果的な活用による個別最適化の促進と、自宅学習習慣の確立を図る指導の実践 ④難関大学入学に対応できる、教員の教科指導力の向上と授業改善</p> <p>※学力の三要素 ○基礎的・基本的な知識・技能 ○知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>【目標】解答へのアプローチより解法（考え方・知る方法）へのアプローチをして探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、解決策の検討、まとめ表現）を体験的に学べる機会を設定する。</p> <p>①-1 すべての教科等の授業においてGIGA端末やCYODを効果的に活用した指導及び、「言語技術」(※)を取り入れた指導を工夫し、必ず生徒による振り返りの活動を実施し、論理的に思考、表現する力を育成 ※情報を主体的に獲得し、自分の考えを組み立てて、分かりやすく発信するための「聞く」、「読む」、「書く」に関する技術 ①-2 朝読書・朝学習の実施 ②-1 すべての教科等の指導において、解答へのプロセスや考え方の理解(その教材ごとおして何ができる、何が分かったようになったのかという資質・能力ベースの指導)を重視し、個人で思考し、協働して学び、個人で振り返る活動を実施 ③-1 基礎学力の定着とボリュームゾーン(中間層)の学力向上 ③-2 自主学習指導の充実と自宅学習時間の確保 ③-3 ゼミ方式の講習の実施 ④-1 研究授業や進学指導上の事例研究等を中心にした校内研修の実施 ④-2 定期考査分析・模試の結果の分析会を柱とした学習指導・教科指導の充実 ④-3 教科指導で特に強化したい内容について年間を通じて授業を参観したい教員(メンター)の授業を中心に、教員相互の授業参観とその後のミーティングの実施 ④-4 補習・講習の充実</p>	<p>○授業研究・校内研修の実施：学期1回 ○自宅学習時間の確保 1・2年生 2時間 3年生 2時間30分 4・5年生 3時間 ○教員相互の授業観察：学期に1回(年3回)以上 ○「指導と評価の一体化」のための全教科・科目の年間指導計画の改善及び生徒への配布 ○指名制による授業研究の参加：延べ5人 ○大学入試分析会・教科指導講座等：延べ60人 ○10分の読書時間の確保：年間1800分</p>
(3) 進路指導		
<p>【目標】生徒の高い志を育て、進路希望を実現するための進路指導部を中心とした組織的な指導体制を構築する。</p> <p>【方策】 ①進路指導部を中心とした6年間の体系的な進路指導計画(立国進路システム)に基づいた指導と学年団による効果的な取組の確実な引継 ②データとその分析に基づく進路指導及び教科指導 ③組織的な講習・補習の実施 ④保護者との連携に基づいた指導</p>	<p>【目標】進路指導部を中心に、データを活用した個別最適化の進路指導と立国イズム(塾に任せない、最後まで諦めない、高みを目指す、チームで実現する)の指導により、学年・教科が有機的に機能する組織体制を構築し、進路実績の充実を図る。</p> <p>①-1 6年間の進路指導計画を充実させ、進路指導部が基本方針を示し、学年が工夫する進路指導体制を構築 ①-2 今春の大学受験結果の精緻な分析とそれに基づく指導体制・内容の見直し ①-3 高大連携の充実 ①-4 海外大学への挑戦を促す進学指導の推進 ②-1 データに基づく分析会、ケース会議等の実施及びその分析結果等に基づいた個別指導と教科指導の改善・充実 ②-2 各教科の大学入学共通テスト目標点の設定と結果分析に基づく教科指導の改善 ③-1 計画的な学期中の放課後講習・長期休業期間中の講習の実施 ③-2 中間層(ボリュームゾーン)の学力の向上 ④-1 保護者会等を活用したデータに基づく進路指導部からの情報発信と担任による個別最適化三者面談の実施</p>	<p>○長期休業日中の講習 ・夏期講習：全学年で実施、100講座の開設、受講者延べ1500人 ・冬期講習：全学年で実施、40講座の開設、受講者延べ 500人 ・春期講習：全学年で実施、40講座の開設、受講者延べ 200人 ○進学実績：大学入学共通テスト試験5教科7科目受験者 90人 ○現役 ・難関国立大学(東大、京大、一橋大、東工大、国立大)合格 10人 ・国立大学合格 50人 ・難関私立大(早大、慶大、上智、理科大)合格 70人</p>
(4) 生活指導		
<p>【目標】異職種が揃うことを活用し、規範意識と道徳心を育み集団力を高めるとともに、自主自律の精神と自己管理能力を養いリーダーの素質を育成する。</p> <p>【方策】 ①基本的な生活習慣を確立させる指導の徹底 ②帰属意識を高め、自分と他者を大切にして良好な人間関係を築き、自ら心身を鍛える態度の育成 ③中等1学年から6学年までの異年齢集団による活動の充実と附属小1学年との連携による活動の推進 ④立川国際中等教育学校「いじめ防止基本方針」に則り、学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取組み、生徒が安全・安心に学校生活が送れる環境の構築 ⑤東京都立立川国際中等教育学校SNS学校ルール」に基づき、家庭と連携し、スマートフォンや携帯電話等を適切に利用する態度の育成 ⑥防災教育等、地域と連携した学校行事の実施</p>	<p>【目標】基本的な生活習慣の確立と校種間の関りを活用し、様々な機会を活用して、生徒が規範意識と道徳心を育み、リーダー性を育成する経験に取り組めるように活動を工夫する。</p> <p>①折に触れ、基本的な生活習慣・規範意識の向上は学力向上に結び付くということを、生徒、保護者、教職員が認識し、共通理解を認識 ②生徒が学校行事等に自主的・意欲的に取組むことによる帰属意識の育成と高学年によるリーダーシップの育成 ③学校行事や集会の折に校歌を斉唱し、立国生であることへの誇りと帰属意識の育成 ④始業式、終業式、修了式、三大行事の際に校歌を斉唱 ④すべての教育活動での挨拶指導(校内外)、身だしなみ指導、時間の遵守指導(遅刻指導)の充実 ⑤登下校マナー、授業マナー、学校施設利用マナーの向上 ⑥都立学校生活指導指針の趣旨を踏まえ、生徒の発達段階・個々の状況に応じたきめ細かい指導の推進 ⑦部活動への積極的に加入を促し、体力の向上、良好な人間関係づくりを推進 ⑧部活顧問と学年、生活指導部、進路指導部の連携 ⑨異年齢集団での活動など、規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組の充実 ⑩-1 地域と連携した行事の実施</p>	<p>○行事の満足度：85％以上 ○縦割り活動を取り入れた行事：年間5件 ○規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組：3件 ○朝のHRの遅刻者数：2000以下(2767←2563←5789)</p>

2 中期目標と方策	3 今年度の取り組み目標と方策	4 数値目標
(5) 国際探究		
<p>【目標】国際理解教育を推進するとともに、本校の特色に応じた探究活動の一層の充実を図る。</p> <p>【方策】 ①国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な教育を効果的、効率的に推進 ②探究的な学びの充実 ③海外研修旅行の充実 ④次世代リーダー等の留学の充実 ⑤資格取得指導の充実と成果検証による英語教育の充実 ⑥関係機関、大学等との連携の推進</p>	<p>【目標】国際理解活動と探究的な学習の時間とを関連付けて実施し、学問領域の学びとの往還を図ることで独自プログラム(立国IBL(仮称))を構築する。</p> <p>①-1 GE-NET20の指定校として、先進的な国際理解教育を推進 ①-2 姉妹校交流の推進、留学生の受け入れの充実 ①-3 英語発表会、イングリッシュユーザーセミナーの充実 ②-1 SDG'sを軸とし、大学院生等を活用して学びの充実を図り、5年生では主に個人研究とポスターセッションを、6年生では協同研究による取組を推進し、立国の独自プログラムとして探究活動を構築 ③-1 海外学校間交流推進校として姉妹校交流校の具体的な内容の構築 ③-2 米国エンパワメントプログラムの実施 ④-1 保護者対象説明会の実施、帰国生徒による研修成果の発表、校内推薦者及び次世代リーダー育成道場参加者への確実な事務の実施 ⑤-1 学年の英語力に応じた適切な語学力検定試験受験の実施と成果検証に基づく英語の授業の改善と充実 ⑥-1 外務省、駐日大使館、国連等関係機関、東京学芸大学等との連携の推進 ⑥-2 大学出張講義の実施</p>	<p>○大学と連携した取組:7件 ○英検各学年の目標級の取得率(全体):70% ○学校評価アンケート 「学校は国際理解教育に積極的に取り組んでいる」:80%</p>
(6) 安全・環境美化・健康指導		
<p>【目標】安全安心な学校づくりをする。生徒が生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努める。</p> <p>【方策】 ①災害安全・生活安全教育を推進するとともに、生命尊重の視点に立った生活指導、安全指導を徹底し、生徒の健全育成を推進 ②組織的な教育相談体制の確立及び個々の教職員のカウンセリングスキルの向上をととし、生徒の悩みに起因する事故の未然防止 ③基本的な生活習慣の確立と健康保持の自覚の育成 ④校舎・施設を大切に使う姿勢を育み、公共の場をきれいに使う環境美化活動の促進</p>	<p>【目標】安全安心な学校生活生徒が生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努める。</p> <p>①-1 防災活動支援隊とともに、地域、関係機関との連携(自治体等)を強化した防災教育を推進。また、避難訓練では災害発生時における、自助・共助・公助の適切な行動が取れる指導の充実 ①-2 薬物乱用防止、喫煙防止・エイズ・性教育・食に関するもの等、様々な教室を実施し、健康的な生活習慣の確立、給食・食育指導の充実による健全育成の推進 ②-1 カウンセリング委員会を中心として、スクールカウンセラーや外部講師の活用を図り、教職員のカウンセリングスキルを向上させるとともに組織的な教育相談体制を確立し、生徒の悩みの解消、生命に関わる重大な事故・いじめ・不登校等の未然防止 ②-2 特別支援教育に対する研修会等を開催し、生徒理解を深めると同時に生徒の実態に応じた適切な対応 ②-3・③-1 スクールカウンセラーによる1年生、4年生全員との面接を行い、生徒・保護者がスクールカウンセラーと相談できる体制を整え、メンタル面での健康管理・健康相談を充実 ④-1 校舎・施設を大切に使う姿勢を育み、公共の場をきれいに使う環境美化活動の促進</p>	<p>○前期避難訓練:10回 ○後期避難訓練:4回 ○地域や関係機関と連携した防災教育:1回</p>
(7) 募集・広報・地域活動		
<p>【目標】積極的に保護者・地域・社会に情報発信を行うとともに、募集対策に組織的に取り組む。</p> <p>【方策】 ①効果的な情報発信についての検証と改善 ②学校説明会などの充実と学習塾等関係機関との連携 ③教育活動の情報を広く対外的に発信するHPの活用 ④市教育委員会や地域との協体制制により、近隣小・中学校・地域と連携した職場体験等の教育活動の推進</p>	<p>【目標】積極的に保護者・地域・社会に情報発信を行うとともに、募集対策に組織的に取り組む。</p> <p>①合同説明会、学校説明会、塾説明会や塾訪問等を充実させるとともに、Webサイトの更新と内容の充実にも努め、本校の特色等を発信 ②近隣小・小・中、都立学校との交流の推進(生徒交流、教員研修、相互連携) ③地域社会である立川市、市教育委員会、曙町、消防署、青年会議所等関連機関との連携の推進 ④総務部を中心に学校内外の募集活動に関する計画・立案および教職員の研修の企画・実施等を組織的に推進 ⑤授業公開・体験入学を充実させ、本校への理解を促進</p> <p>※中等校舎及び附属小学校校舎工事があり、本校の体育的活動や部活動に制限があることから、令和4年度は学校施設開放事業を実施しない。</p>	<p>○本校での適性検査及び学校説明会参加者数:3000人 ○Webサイトの更新:150回以上 ○地域等に、広報誌 Tachikoku Times の発行 10回 ○一般応募募信率:5倍</p>
(8) 施設設備管理・経営企画室運営		
<p>【目標】学校経営計画に基づく教育活動が円滑に遂行できるよう、経営企画室機能を充実させる。</p> <p>【方策】 ①業務管理表等を活用して、業務の進捗状況の適切な管理 ②生徒の安全確保のための施設設備の保守点検及び改善の随時実施 ③管理運営費(附属小学校及び前期課程に係る予算)の要求と、自律経営推進予算と管理運営費の効果的で確実な執行を経営企画室と各分掌、各校種間の連携のもと適切に管理 ④中等自律経営予算、管理運営費と附属小学校管理運営費との有効な編成と執行 ⑤中等校舎工事、附属小学校の新築工事及び引越に関する業務の確実な実施</p>	<p>【目標】学校経営計画に基づく教育活動が円滑に遂行できるよう、経営企画室機能を充実させる。</p> <p>①-1 学校経営計画に基づく教育活動を円滑に遂行できるよう経営企画室機能の充実 ①-2 担当者による経営企画室長への業務進捗状況の報告により、進行管理の徹底 ②校内の施設の安全管理及び修繕の積極的な推進 ③・④東京都教育委員会所管課、副校長、担当教員との綿密な連携と要求資料作成 ⑤特に中等校舎の夏季休業中における工事に伴う教育活動の実施について、行政系副校長を中心に附属小学校との連携により計画、実施</p>	<p>○管理運営費と自律経営推進予算の執行率:75%以上 ○センター執行率:55%以上 ○令和5年度予算編成:2月完了 ○施設設備の課題改善または実施計画:100% ○管理職と企画室との打合せ:月1回 ○夏季休業中の教育活動に関する計画:5月GW明けまで</p>
(9) 附属小学校との一体的運営		
<p>【目標】附属小学校と中等教育学校との一体的な運営を行い、スクールミッションに基づく目指す生徒像の達成に取り組む。</p> <p>【方策】 ①副校長間の連携を強化しチーム力の向上 ②分掌間の連携促進と教育活動の円滑でより効果的な実施 ③校舎建築工事や中等校舎の工事に係る双方の施設の共有 ④校舎完成に係る行事の円滑な実施</p>	<p>【目標】附属小学校の開校にあたり、附属小学校教職員と中等教育学校教職員とが兼務となっていることを活用し、教育活動や工事計画等で連携を十分に取り、一体的に運営する組織作りと意識の醸成を図る。</p> <p>①附属小担当副校長、中等担当副校長及び行政系副校長が連絡をもち、課題共有と協議を行い、主体的に解決策の提案及び解決に向けた取組を実施 ②項目1(1)①に示す内容について附属小学校の分掌主任と協議し連携して実施 ③特に8月の新校舎への移設と中等校舎の工事に関する講習、面談、部活動等の実施に関する企画、連携、実施 ④新校舎内覧会、開校記念式典実施に関する附属小学校との連携(副校長、総務部、学年)</p>	<p>○立国副校長連絡:月1回 ○附属小学校との連携活動:6件 ○保護者への情報低k表 本校Webサイトもしくははさくらメールにて随時 ○安全指導:朝礼等で随時実施</p>